■報告には「事実」と「意図」と「誤り」が含まれている

修正：　2024.02.01
投稿：　2024.02.01

●報告には「事実」と「意図」と「誤り」が含まれている①

上司**「悪いことは早めに報告しろ！」**

と言いますが、大抵、部下は、
明らかにまずい状況になって、
ようやく報告してきます。**なぜか？**

その方が叱られる量が少なく済むからです。

悪い報告は、いくら早く報告しようが、
悪い報告であることに変わりはないため、上司からして、
「どうしてこんなことになったんだ！」と
部下を叱りつけたくなるものです。

もし部下が遅れて報告してこようものなら、
悪い報告をされたことに対してイラだっている上に、
「報告しようと思えば報告できた、にも関わらず報告しなかった」
という説教するに十分な理由も加わるわけですから、当然、

「いつも言ってるだろ！
悪いことほど早めに報告しろと！（; ・`д･´）」
と、ガミガミと叱りつけます。しかし部下からすると、

「どうせ早く報告しても叱られるなら、つまり、
報告した回数だけ叱られることになるくらいなら、
いっその事、あれもこれもまとめて報告しよう！
そしたら１回の説教で済む！（。-`ω-）」
となりますし、はたまた、

「もしかすると偶然、問題が解決するかもしれない。
意味もなく叱られるのはゴメンだ！
だったら、報告は致命的になってからにしよう！（￣▽￣）」
という判断になります。

小出しにすると、その都度いろいろ言われますが、
まとめて報告すると、その分、
お叱り量を低減できる、ということです。

だからどうすればいいのかを考えなければなりませんが、
とりあえず、**「悪いことは早めに報告してほしい」**からと言って、
「悪いことは早く報告しろ！」とガミガミと言えば言うほど、
「部下からの悪い報告は遅くなる」ということを知っておいてください。

（続）

//==========//

●報告には「事実」と「意図」と「誤り」が含まれている②

綺麗な情報には裏があるものです。

組織においては、情報は下から上へと報告されていきます。
そして、部下は上司に良いように報告したいわけですから、
できる限り正しく、かつ、良いように報告しようとします。
その結果、例えば、

売上 444,445 円という事実は、作業者が担当者に伝える際、
売上約 444,450 円となります。この報告を受けた担当者は、
売上約 444,500 円として、管理者に報告します。

さらに、管理者は、
売上約 445,000 円として上司に報告し、上司は、
売上約 450,000 円として計算します。そして、
売上約 500,000 円として役員は扱い、なんだかんだあって、
最終的には売上約 1,000,000 円として集計されます。

ちょっとしたことが積み重なって、
どんどん都合よくなっていくあからさまな例ですが、

実際、このようなことは起こっています。何せ、
数字ではなく**文章**で報告されるものですから。

現場の情報ほど現実を表しており、
上にいくにつれて、人の意図が含まれたものとなります。ゆえに、
正しく実状を知りたいのであれば、現場に出なければなりません。
上がってきた報告だけで判断していては失敗する、ということです。

例年より売上が上がっているという報告を聞けば、
「そうかそうか、みんな会社のために頑張ったんだな」と、
責任者はそう捉えるかもしれませんが、

もしかしたら、**無理矢理、売上の時期を調整しただけ、**
かもしれませんよ…。

組織において、情報は上に上がれば上がるほど、
「選択」され**「洗濯」**されてしまうものなのです。
綺麗な情報には**裏**があるということです。

（続）

//==========//

●報告には「事実」と「意図」と「誤り」が含まれている③

入力されているデータが正しい
という保証はどこにもありません。

システムに蓄積されているデータを利用して
何かを判断しているのであれば、
「そもそもそのデータが誤っている可能性」

を考慮していますでしょうか？

それは、人為的なものかもしれませんし、
単なる入力ミスかもしれません。何にせよ、
データに**誤り**があることに変わりありません。

そもそも人は、自分の功績は盛って報告するものであり、
逆に、自分のミスとなれば控え目に報告しようとします。
他人のこととなれば、これがまた逆転しますが…。
※主観的な評価と客観的な評価の差から、
　誰がどれくらい盛っているかを調査することはできます。

何にせよ、報告(ここではデータ入力による報告)は、
しょせんその人の基準でやっていることですから、よく考えれば、
蓄積されている数値データが正しい保証などどこにもないのです。

例えば、これまでにも何度か話題に上がっていますが、
国が管理する**年金**においても入力ミスは多々あります。
そのため、何万人もの人の、受け取ることのできる年金の金額が、
過小評価されているとのことです。恐ろしいことに。

同様に、会社の経理担当者も入力ミスはするもので、
給与の入力に誤りがあり金額が微妙に間違っている、
ということは割と日常茶飯事です。いや、本当に…。

意外と身近で実際に起こっている話ですので、
数字には目を光らせておかないと、被害を受けるのはみなさんです。
(彼ら彼女らは指摘しないと気づきませんし対応もしませんから)

（完）

//==========//

Web サイト：

データアクションサービス　―データからアクションを起こす―

著者：

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)